

ヘルスケアキャンペーン2020

健康増進は成長への投資

～広がる健康経営、実践企業が増加～

従業員の健康保持・増進を図る取り組みは、企業の生産効率向上に寄与し、収益性や企業価値向上に結び付く投資。こうした視点で健康管理を考え、戦略的に実践する「健康経営」を取り入れる企業が、県内でも増えている。

従業員の健康が企業経営を左右

コロナ禍が企業経営にも大きな影響を与えた。リモートワークの採用といった働き方の変化だけでなく、従業員の健康が企業に与える影響がより明確となった。

1990年代から健康経営が「常識」となっている米国では、従業員の健康とパフォーマンスの関連性が科学的研究によって明らかになっている。

日本ではリーマン・ショック後の2009年ごろから、人的コスト削減に伴う従業員の労働環境悪化のリスクが顕在化し、大企業を中心に健康経営に取り組む企業が増え始めた。現在、大企業では標準的な経営戦略の一つとなり、中小企業でも広がりを見せている。

少子高齢化の影響で生産年齢人口が減少する中、従業員の力を高めて生産効率を上げるほか、企業のイメージアップを図り、人材採用につなげる手段としても注目されている。多くの企業にとって高齢化や人材不足は経営の根幹に関わる重要課題となっていることなどを背景に、健康経営は着実に浸透している。

まず健康状況と課題の把握を

健康経営の重要性を理解しても、何から始めればいいのか。さまざまな方法があるが、まずは健康診断結果の分析などを通して従業員の健康状況と課題を把握し、健康づくりに必要な方策を見つけ出すことが最初の一步となる。

協会けんぽ群馬支部加入企業であれば、「生き生き健康事業所宣言」の活用がお勧めだ。エントリーは、健康診断の受診と特定保健指導、2次検査・治療の推奨をベースに、事業所オリジナルプランを最低一つ以上加えるだけ。

エントリーすれば健康診断結果を県平均や同業他社と比較して、肥満や高血圧、喫煙者割合の多寡といった自社の特徴を分かりやすくまとめた「事業所カルテ」を利用できる。健康課題が明確となるため、対策を取りやすく、余分なコストをかけずに健康経営を始められる。健康経営事例集や群馬支部独自の表彰制度もあり、目標を立てやすい。同制度は11月4日現在で684社が宣言していて、本年度中に1000社到達を目標に掲げる。



従業員の健康保持・増進の取り組みは成長への投資
(写真はイメージ)



健康診断と健康サポート(保健指導)

日々健康であるためには、わずかな体の変化に早く気付くことが重要だ。そのためには、まず健康診断を大切な機会と捉えることをお勧めしたい。ただ、健康診断は「受けっぱなし」にしないことが肝要で、健康診断とともに「健康サポート」を活用することが健康づくりのポイントとなる。健康サポートは、健康診断の結果をもとに保健師や管理栄養士からの具体的なアドバイスを受けられる。生活習慣病の発症のリスクの高い人など、一人一人に合わせた生活

習慣の改善を提案し、健康づくりを応援する。最近是对面だけでなくテレビ電話形式も導入されている。協会けんぽ群馬支部では、事前に予約して専用アプリをダウンロードすれば、スマホやPCなどで面談を行うことができる。同支部によると、会話のやりとりもスムーズで、利用者も順調に増加しているとのこと。相談したうえで、2次検査を受診するなど、より確かな健康づくりを目指すことも可能だ。

※「健康経営」はNPO法人健康経営研究会の登録商標です。

主催 上毛新聞社 共催 群馬県、全国健康保険協会(協会けんぽ)群馬支部 後援 群馬県医師会、群馬県商工会議所連合会、群馬県商工会連合会、群馬県中小企業団体中央会

協賛

群馬小型運送株式会社

群馬トヨペット

群馬ヤクルト販売(株)

Orchestrating a brighter world NEC

明治安田生命

(順不同)

※上毛新聞HP内「ヘルスケアキャンペーンページ(www.jomo-news.co.jp/ad/healthcare/)」で、これまでの啓発紙面等、キャンペーン内容をご覧ください。

こちらからも、
ご覧いただけます

